

# 令和7年度 自己評価報告書

## 1 学校の概要

学校名 世田谷区立東玉川小学校  
所在地 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢1-1-1  
学校長 依田 哲治  
児童 378名(令和8年1月現在)  
ホームページ <http://www.setagaya.ed.jp/higa>

## 2 令和7年度の教育目標及び学校の重点目標

以下に本校の今年度の教育目標並びに重点目標を示す。

### (1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基調とした教育を推進し、自他を敬愛し、理想に向けて自らを高める志をもち、日本の伝統・文化を継承し、世界の人々と共に生きることのできる児童の育成を図るために、次の教育目標を設定する。

「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども よく学び よく遊べ」

### (2) 令和7年度の学校の重点目標

- 毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にする言動ができる児童
- 自ら課題を見出し、解決するために自分や友達と試行錯誤を重ね、課題解決を繰り返すことができる児童
- ICT機器を効果的に利活用し、自分らしく学ぶことができる児童
- 自分の体力を高めることを意識して活動に取り組むことができる児童

## 3 結果と考察

学校行事・体力向上・生活指導・学習指導の項目に関し、令和7年度の学校関係者評価アンケートでポジティブまたはネガティブな傾向として上位にあった内容について取り上げた。それぞれの結果を基に「教員自己評価」の結果及び児童アンケートの結果、具体的な取り組みを加味して考察した内容を示す。

※回答選択肢はいずれも、A(とても思う)、B(思う)、C(あまり思わない)、D(思わない)、E(分からない)。

※斜線は該当する項目がない場合。

### (1) 学校行事

#### ① 学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	児童		保護者	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
学校行事は、(子どもにとって)楽しい。	95.7%	4.3%	93.6%	6.4%
学校行事は、(子どもにとって)達成感がある。	93.1%	6.9%	91.6%	8.4%

#### ② 関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
適正に教育が行われるように、学校行事が計画的に組まれている。	100%	・間隔をあけて、適切な時期に組まれている。教務から学年主任に、次年度の行事の日程について確認をしてもらっているため助かっている。
子どもたちが、学年に応じた役割を意識して学校行事に取り組めるように働きかけている。	95%	・様々な学校行事を通じて児童の成長を感じる機会が多い。子どもたちに「学年相応」という意識をもたせることで、新しいアイデアが生まれている。

### ③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザ☆まつりでは、2～6年生までの各学級で児童のアイデアを出し合い、お店の準備をしている。1年生は「ザ☆まつり」を知り、次年度に出すお店を考えるきっかけとなるように、見て学ぶ時間とした。</li> <li>・委員会では、5・6年生で分担し、常時活動が円滑に回るように指導した。また、6年生を中心に企画立案したイベントをそれぞれの委員会でやっている。</li> </ul>
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザ☆まつりでは、学級ごとにお店を出すことで、活発に話し合いが進められた。児童が主体となり活動することで、責任をもって取り組むことができていた。</li> <li>・学校全体での課題を知り、投力を高めるためのイベントや給食の残菜を減らす啓発ポスターを掲示するなど、6年生中心に詳細な内容や計画を立て実行することができていた。</li> </ul>

### ④考察

本年度は行事を見直す転換期として運動会が「体育発表会」に、ひがたま発表会が「ひがたま学習発表会」に変わったこともあり、昨年度と比べアンケート結果に大きな変容（減少傾向）が見られるかと思っただが、好意的な評価が多く見られる結果となった。これは年度当初から「学習的要素や児童の主体性を促す」という変更の主旨を教職員が理解して取り組んだことと、関係者にもその意向が伝わったことで、既存の行事と併せて達成感や充足感が得られたものとする。

## (2) 体力向上

①学校関係者評価アンケートにおける割合 ※児童の質問項目は、校内で独自にとったアンケート結果。

質問項目	児童		保護者	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。			93.6%	6.4%
あなたは体育の時間や休み時間にすすんで体を動かしていますか。	84.7%	15.3%		

②関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
子どもたちが自分から進んで体力の向上に取り組めるよう指導している。	100%	・運動委員会が主体となって、運動技能のこつや楽しさに気付けるような取り組みを計画実施している。
休み時間に校庭で元気に遊べるように工夫をしている	80.0%	・校庭で一緒に遊び、体を動かすことを促している。様々な人と遊べることのよさは話しているが、中遊びをしたくない人もいるので、積極的にこちらも話していない。
体育朝会の設定は、児童が体力向上を意識することに役立っている。	94.0%	・体育朝会の取り組みが体を動かそうとするきっかけになっている。業間運動の取り組みとして、リズム縄跳びなどの週間を上手く取り込めるといい。

### ③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事では、5月の体育発表会を学習成果の発表の場と位置付け、走る力やリズムによって体を動かす力、集団行動等を高めることについて、計画的に指導してきた。6月に体力調査を実施したことで、高めた力を試すよい機会となった。本校を含めた学び舎3校では、例年「投げる力」が運動能力の課題となっており、今年度も同様の結果が見られた。「投げる力」を高めるため、運動委員会の児童を中心に、「ドッジボール交流会」「紙鉄砲イベント」「めんこイベント」を企画運営した。この活動を通して、児童1人1人に運動の楽しさを感じさせると同時に、投げる力の素地となる動きを体験する機会を設け、体力向上を図った。</li> </ul>
----------	---

児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育発表会においては、走る力やリズムによって体を動かす力に個人差がある中で、児童が集団で取り組むことで、運動に取り組む意欲を高め、体力向上を積極的に行うことができた。</li> <li>・運動委員会の「ドッジボール交流会」「紙鉄砲イベント」「めんこイベント」では、クラス内や異学年の児童と協力する中で、楽しみながら運動に親しむことができた。また、遊びの中で運動の楽しさを感じたことで取り組む意欲が向上し、休み時間に友達と遊ぶなど運動習慣の定着が見られた。</li> </ul>
-------	--

#### ④考察

体力向上を目指す手段として運動委員会が新たな企画を立ち上げ、「ドッジボール交流会」に加え、紙鉄砲やメンコなどを「投力向上」として業間に行った。児童が運動に親しむ機会が増え、手軽にできることから校内・外でも行っていたと考えられる。保護者のアンケート項目「本校の子どもたちは、休み時間に校庭で元気に遊んだりしている」もポジティブ傾向な評価が90.9%と高く、好意的に捉えていることが分かる。一方で、児童及び教員の休み時間の外遊びに関する評価はネガティブな結果が表れ、教員の自己評価のコメントからも難しさを感じていたことが窺える。

体育朝会の縄跳びや運動遊び等を運動委員会が中心となって行い、少しでも多くの児童が運動の楽しさや必要性を感じていけるようにしていくことが、課題の解決につながっていくと考えられる。

### (3) 生活指導

#### ①学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	児童		保護者	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
先生に注意されたことは、理解できる。	94.0%	6%		
本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。			84.7%	15.3%

#### ②関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
社会のルールを守ることや、子どもたちの問題となる行動に対して、適切にわかりやすく指導している。	90%	・ルールを守らせるだけでなく、なぜそのルールがあるのか意味を丁寧に伝えるようにしている。指導をする際に事例を適切にあげる。

#### ③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導夕会等で各学年の児童について共通理解していることもあり、教員が児童の特性を理解している。学年に関係なく問題行動があれば、指導している。</li> <li>・「東玉川小学校のきまり」で学校生活全般のきまりを統一した形で指導している。日々の課題については週目標で具体化して、指導に当たっている。</li> </ul>
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルに伴う突発的な感情の高ぶりから、対人関係に影響するような言動が見られることはあるが、過ちに対して最終的には認めて反省する様子が見られた。</li> <li>・問題行動の原因を自ら考えたり、今後どうするかを自発的に言える様子も見られるが、指導によっては、児童が指導上の言葉に頷いたり、聞いているだけになったりすることもあったのではないかと思う。</li> </ul>

#### ④考察

児童のアンケート項目「私は、学校のきまりを守って、行動している」はポジティブな傾向が91.4%、「先生に注意されたことは、理解できる」は94.0%と高い数値が出ている。しかし、関連する保護者のアンケート項目ではネガティブ傾向が15.3%と高く、相違が見られる結果となった。

自己評価の具体的な意見にあった「ルールを守らせるだけでなく、なぜそのルールがあるのか意味を丁寧に伝えるようにしている」や「指導をする際に事例を適切にあげる」という見方に加え、「児童に考えさせる」という観点を取り入れた指導をしていくことが次年度の課題であると考えられる。

### (4) 学習指導

#### ①学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	児童		保護者	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある。	95.7%	4.3%		
本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある。			86.4%	13.6%

#### ②関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
校内研究の3つの視点に沿った授業づくりに努めている。	100%	・特に国語や社会科では小グループで話し合ったり、協同的に課題を解決させたりする活動を増やした。 すべての視点を意識して取り組んでいる。

#### ③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数では、学習問題に対する自分の考えをまとめさせ、分かりやすく説明できるように、教師が示した話型を生かしながら発表させている。</li> <li>国語では、話し合い活動を通して、司会・記録・時間係などの役割分担をしたり、司会原稿などの話型を提示したりして、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聴いたりしている。</li> </ul>
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数では、自分の考えについて話型を生かしながら友達に伝える経験を重ね、考えを深めたり、新たな考えを思いついたりすることができるようになった。</li> <li>国語の話し合い活動の経験を通して、体育でのグループ学習や理科の実験の際のグループ学習等で、円滑な取り組みができるようになってきている。</li> </ul>

#### ④考察

本年度、校内研究では「自ら課題を見付け、協働して解決していこうとする児童の育成」を研究主題とし、適切な話型を活用して児童が対話を基に考える学習を進めてきた。普段の授業においても、こうした活動を取り入れて授業を行ったことで、児童のアンケートや自己評価の結果にはポジティブな傾向が見られた。しかし、保護者のアンケート結果からはネガティブな傾向が13.6%となり、類似するような結果が得られなかった。

良い部分について今後も研究を重ね、発展させていくとともに、保護者アンケートの「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」の項目でポジティブ傾向が94.3%と高い評価を得ていることから、保護者会での研究や学習指導に関する情報提供、学校公開での授業実践で理解を深めていく必要がある。

## (5) 肯定的回答が最も多かった項目

### ① 学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	保護者	
	ポジティブ	ネガティブ
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	94.3%	5.7%

質問項目	地域	
	ポジティブ	ネガティブ
本校は、地域との連携に努め、地域を学ぶ機会を大切にしている。	100%	0%

### ② 関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
保護者会の際には、学校の様子をわかりやすく工夫して伝えている。	100%	動画や写真を交えて行っている。口頭での説明だけでなく、スライドショーを使って視覚的に学校での様子を伝えるようにしている。
地域の人材や地域の施設を教育活動に活かしている。	100%	学習支援の方々がとても熱心に児童の学びを助けてくれ、普段できないような体験・経験をさせてもらえることが素晴らしいと感じる。

### ③ 具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会で全学年共通する内容については、あらかじめ撮影した動画を各教室で視聴できるようにしている。</li> <li>・タブレットで記録した授業風景や行事への取り組みなどを動画や写真で公開し、様子が分かるようにしている。</li> <li>・地域の方をお招きして、以下のような活動を行った。 洗足池公園での秋見つけ・どんぐりや葉っぱの工作(1年生)、校庭で植物の種探しや種の模型作り(2年生)、多摩川河川敷で虫探し(3年生)、洗足池自然観察・福祉体験(4年生)、田植え・稲刈り体験(5年生)、戦後の生活について話を聞く(6年生)</li> </ul>
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物の特徴や生態など、実際のもを手にしながら直接質問したり、説明を聞いたりしている。</li> <li>・学級園の一部である小さな田んぼで、春には田植えを行い、成長を見守った。秋には、鎌を使って刈り取りを行い、収穫した。自分たちで作った米に感動している児童が多く見られた。</li> </ul>

### ④ 考察

児童の様子が伝わるようにという項目については、教員側が意図して分かりやすく伝えようとしていることが、保護者にとっても理解しやすいという形になって表れていることが分かる。保護者アンケートにおける肯定的意見の割合は94.3%と最も高く、今後もICT機器を活用して、発信がうまくいっている点を維持していきたい。

地域連携については、各学年の様々な活動に地域の方が関わってくださっている。地域の方であるからこそできる活動が多く、教育活動の幅を広げる機会を得られている。アンケートでの肯定的意見は地域・教員いずれも100%となっており、地域連携が機能していることが表れている。

## (6) ネガティブな回答・無回答が多かった項目

### ① 学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	保護者	
	ポジティブ	ネガティブ
私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	70.0%	30.0%

質問項目	児童		保護者		
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	無回答
自分の生き方や将来のことに ついて、考える授業がある。	83.6%	16.4%	53.6%	17.6%	28.8%

### ② 関係する教員自己評価における質問項目とポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
国際理解教育、福祉教育、キャリア教育、探究的な学びなど現代的な課題と地域関連を生かした学習の充実を図っている。	95%	子供が将来、社会的、職業的に自立し、自分らしい生き方(キャリア)を主体的に形成していくために、必要な能力や態度を育てる教育なので、具体的に生かされていく側面だけでなく、やりぬく力や協働、協調していく力など、非認知能力を育むという視点ももってもらいたい。

### ③ 具体的な取り組み

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画を学年ごとに作成し、学習全般でキャリア教育が行えるよう見通しをもって学取り組んでいる。基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力を「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」として位置付けている。</li> <li>キャリアパスポートを作成し、前後期の2回にわたり、児童が目標を設定したり、振り返りを行ったりしている。学年末には担任がコメントを添え、家庭に持ち帰るようにしている。次年度の初めには、保護者からのコメントももらい引き継ぐ形をとっている。</li> </ul>
児童の様子	5年生の川場移動教室では、共同生活の体験から「友だちの考えや立場を認め、目的に向かって高め合おうとする」という目標を達成できた。また、川場村について調べることを通して「多様な方法で情報を集め、見通しをもって主体的に、解決に向けて追及することができる」という目的も達成できた。

### ④ 考察

学校行事に関しては、否定的意見が30%と高くなっているが、実際には多くの保護者に行事に参加していただいている。また、準備や片付けなども含め様々な形で協力も得られている。質問項目の「PTA や地域主催の行事などにすすんで」の部分に、今までポイント制で半強制的に参加していたという思いが反映されたのではないかと推測される。次年度は「学校を支えるしくみ」により PTA も新しい組織となり、保護者が行事に参加しやすい体制が取られるようなので、その点に期待したい。

キャリア教育に関しては、保護者の否定的意見が46.4%とあるがその内28.8%が「わからない」という回答になっている。上記「具体的な取り組み」にも書いたように、キャリアパスポートを保護者が確認し、活動が分かるようにしているが、認知度が低い。学年の初めの保護者会で具体的な取り組みを説明したり、学校評価だよりで取り上げたりしていくなど視覚的に分かる方法も考えながら、認知度を上げていく必要がある。